

2025年万博基本構想検討会議（第2回）議事録

【開催概要】

- 1 開催日時 平成28年7月29日(金) 13時から14時30分
- 2 場 所 大阪府庁本館2階 第3委員会室
- 3 出席委員等

<有識者>

秋山委員、荒川委員、江原委員、嘉名委員、澤田委員、渋谷委員、玉井委員、
中谷委員、溝畑委員、森下委員

<行政>

新井委員、伊吹委員（代理出席 井上博覧会推進室長）、田中委員、
田代委員（代理 種村副町長）、田村委員、辻委員（代理出席 宮崎副市長）

<経済界>

出野委員、児玉委員、齊藤委員

【議事次第】

- (1) 理念・事業展開部会及び整備等部会での検討状況について
- (2) 基本理念、名称、テーマ、サブテーマについて
- (3) 事業展開について

【配布資料】

- 資 料 1 : 第1回理念・事業展開部会での検討状況
- 資 料 2 : 第1回整備等部会での検討状況
- 資料3-1 : 本日、議論を深めていただきたい事項
- 資料3-2 : 基本理念、名称、テーマ、サブテーマに関して
これまで出された意見の整理
- 資 料 4 : 国際博覧会の主要な施設・事業の構成について
(澤田委員提出資料)
- 資 料 5 : 中村委員（アドバイザー）からいただいた意見
- 資 料 6 : 増田委員からの提出資料
- 参考 資料 : 前回会議までに委員から提出のあった意見と資料
(建畠委員、中谷委員、森下委員)

【内容】

○事務局

事務連絡、配布資料確認

資料1「第1回理念・事業展開部会での検討状況」、

資料2「第1回整備等部会での検討状況」について説明

○秋山座長

どうもありがとうございました。二つの部会、第一部会の検討状況について事務局からご報告いただきました。理念部会の澤田部会長、本日は整備部会の橋爪部会長はご欠席でございますので、当日ご出席なされた委員を代表しまして、こちら澤田委員の方から、補足事項がございましたらよろしく願いいたします。

○澤田委員

はい、澤田でございます。理念・事業展開部会についてお話をします。私から考えるべき視点ということで3つ出させていただいて、一つは招致を成功させるという視点が必要です。それから2つ目は大阪・関西・日本の発展にどう資するかという視点。それから国際社会からの期待にどう応えるのか、これが今考えるべきことなのではないか、ということをご提示させていただいて、それで議論に入りました。多様な角度からの意見ということで、今ご報告いただいた資料を見ても、その全てがまとまった意見ではなくて、全く正反対の意見も含んでおります。それをきちっと、正反対の意見も出してほしいと事務局にもお願いしました。

ただ、今ここに記述されている内容が各委員の先生に確認した意見にはなっていないので、今後各委員の先生方にもう一度確認して、ニュアンスが正確ではないなど指摘いただいて資料を事務局の方でリバイスしていただきますので、そのあたりは皆さん少しご配慮頂いて見て頂ければと思います。

議論としては、健康というのをどういう風に定義するのか、というところで、内なる健康と、もう少し広がりのある、社会も含めた健康がいいのか、そのあたりがやや委員の方によっては捉え方が異なり、なるべくわかりやすくした方がいいという意見や、別な視点で世界的なレベルからすれば、もう少し広げた方がよいのではないか、というところで2つのご意見があったと思います。それから今後の話でございますが、英語表記、当然 BIE に提案する時には英語もしくはフランス語でする訳でございますので、英語圏、フランス語圏の人にどうアピールするのか、ということが非常に重要だとの話が出されました。それからテーマの議論、名称についてはほぼすべての委員が、ほぼ今の原案でよいのではないか、ということでございますが、サブテーマの議論ではもう少しより具体的な中身と、それが具体的にどう展開されるのか、ということを議論した方がよいのか、というご意見があり、それは次の理念・事業展開部会で、今度はやや事業寄りの話をさせてい

ただきますので、そこでサブテーマをどう展開していくのかという議論がなされるのではないかと考えております。それから整備等部会ですが、7つの会場が示されたのですが、大きく言うと、これから開発する丘陵地、それから今公園として使われているところ、それから今開発は終わっているが空いている土地、それからこれから埋立てするところ、大きく言うとその4つのタイプの会場が紹介されました。その中で、意見としては、今後絞る上ではアクセスに対する視点、それからテーマが表現しやすい会場という視点もいるのではないかと、という意見がありました。それからやっぱり環境保全というのは非常に重要なので、なるべく環境破壊しない会場、事業費があまりかからないことも大事だと。最後に、跡地とテーマとの関係、どうレガシーを引き継いでいくのかという視点も重要なのではないかと、というご意見が出ましたが、当日は会場地についての紹介が長く時間がかかりましたので、各委員がご紹介いただいたことについての感想を述べたというところに留まったと思います。どこが一番といったようなことについては、まだこの段階では議論が深まっていなかったと思います。以上でございます。

○秋山座長

ありがとうございます。これで両部会での検討状況につきましてのご説明を終わりました。最初の事務局からのご説明、また、ただ今の澤田委員からの補足のご説明につきまして、それに加えて補足すべき点、あるいはご質問、ご意見がございましたら委員の先生方から頂きたいと思っております。挙手をお願いいたします。ご意見ございませんでしょうか、ご質問でも。

○江原委員

質問とお願いがあります。第一回の整備等部会だったと思いますが、今後、ロビー活動をどうするのか、ということをお聞きさせていただいたかと思いますが、この資料には、そのことがふれられていません。ロビー活動は万博の開催権をとるための極めて重要な活動だと思います。開催権がとれなければ、元も子もないわけです。そのロビー活動について、私は、どちらの部会でやるのでしょうか、それとも他に部会を設けてやるのでしょうかと質問させていただきました。ロビー活動を行う時が来ているのではないかとおっしゃるので、今から、その準備だけでも始めておいた方がよいのではないかとおっしゃるので、発言させていただきました。ロビー活動にはいろいろありますが、開催権を得るという視点からみて、最優先事項として取り組むべき時期に入っているのではないかとおっしゃいます。ロビー活動に関わる私の発言が、資料に入っていないということにつき、伺いたいと思っております。

○秋山座長

はい、ありがとうございます。事務局の方から何か、その点につきましてご意見ございますか。

○事務局

事務局でございます。江原先生の方から前回頂きました項目についてですね、ここの中に記載していないことについては申し訳ございませんでした。現時点ですね、ロビー活動については、まだ中身が決まっておられませんので、今後の認識ということで我々認識しておりましたけれども、そういった重要な点につきましてはですね、この中に記載をして、今後どういう風な形で進めていくのかについても座長、部会長と相談しながら検討させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○秋山座長

江原委員から、その点について何かご提案がございますでしょうか。

○江原委員

ロビー活動の準備はしておいた方がいいと思います。ロビー活動というのは非常に難しいところもありますが、重要です。いろいろな分野の方々、政府等も深く関わってくるかと思えます。例えば、在日の外国大使館をどういうふうにもわって説明するのか、誰に行ってもらえるのか、また、誰に、ロビー活動の中心になってもらうのかといったことなどです。個人的な話でたいへん恐縮ですが、愛知万博の時に、愛知万博のアドバイザー、かつ、愛知万博大使となった方がロビー活動をやっていました。私の友人が、その方と、5年間ほど行動を共にしていたのですが、その時の苦労話をよく聞かされました。彼は、いろいろ苦労し、困難も多々あったけれど、開催権の獲得に大きく貢献したはずだと、つくづく話してくれました。万博開催権の獲得に向け、ロビー活動をどう進めて行くのか、どう協力体制を組むのか、今の段階で、その段取りというのをしっかり決めておいた方がいいと痛切に感じています。ご検討いただければ何よりです。以上です。

○秋山座長

その点について、渋谷委員お願いします。

○渋谷委員

僕も江原委員のご意見に非常に賛同してしまして、前回理念・事業展開部会でも例えば、9月12日、13日にG7の保健大臣会合があるので、そういう場を借りながら少しずつロビー活動も含め、アナウンスしていくということも議論しました。だから、そうした議論は出ているということをお伝えしたいなと思いました。

○秋山座長

各国への働きかけもそうですけど、すべての国際機関への働きかけが必要ですね。このテーマならWHOだとかUNだとか。特にアジアでの活動は活発だと思いますので、そう

いうところへは早くからの働きかけが必要ではないかと思えます。

○中谷委員

今のロビー活動の続きなのですが、国内のロビー活動と言いますか、最初に招致を勝ち取るために、まず国内的にも「そうだ、大阪がやるんだ」ということを納得させないといけないわけです。それで、非常に耳の痛いことを言って申し訳ないのですが、高齢化関係の指標について、必ずしも関西というのは高くはないわけです。健康寿命にしても要介護認定率にしても。逆に言えば、大きなチャレンジがあるからこそオポチュニティもあるので、そこを今の段階から関西あるいは大阪が日本を先導して大きなチャレンジにタックルして、オポチュニティに変えていくんだというところがないと国内的になぜ大阪なんだというところで説得に困るのではないかという感想を持ちました。それ以外のところはいろんな意見が出たとお話しだったので、大体コンバージェンスというか方向性が一致してきたので、それを束ねるような今後国内的なマーケティングとそれを裏うちする健康面での実績作りが必要ではないかと思えます。その努力の集大成に万博があるという形になれば府民の方々も万博効果を実感できて、支援の輪が広がると思えます。

○秋山座長

ありがとうございます。はい、どうぞ。

○溝畑委員

前回、2002年ワールドカップを韓国と4年間壮絶なバトルをやって最後共催になったその時の熾烈な経験と、今回2020年オリンピック・パラリンピックも実は11年に立候補してから13年に決定する最後の半年の、ここでは中身を言いませんけど。やっぱりここで整理しないといけないのが、誘致というものが実態問題として、万博の誘致というものがどういうふうなメンバーの投票で決まって、そのメンバーというのは誰が決めて、そこに誰が影響力を持っているのか、単に大使館に声をかけてもですね、FIFAの時を申し上げますと、はっきり言いましてビジネスを絡めないと一切話は前に進めませんでした。それはここで議論することではなくて、極めて高度な機密性の高い分野ですから、まずは事務局とそういうスペシャリストを集めた戦略部会です。こんなことをみんなで議論して漏れたら大変ですから、逆にいうと、ここで決めることではないと思えます。事務局もおそらくそういう考えをお持ちだと思います。だから、今までの誘致資料をしっかりと調べて、このメンバーの中でそういう資格として使える人は使えばいいし、このメンバーは私からするといい人ばかりでそういうのは向いていないと思えます。それ専門のプロがいるんです。正直言いまして、投票ですから。最後は何が動くかは言いません。そういう世界だと私は思います。利権が絡んだ世界です。ただ、そこはそこできっちりやっていこうといったオーソライズをして、あとは事務局の方で過去のいろんな大会の誘致の実績、

キーパーソン、投票はどうやって決まっていくのか、あとはライバル国です。パリが出るか出ないかで雲泥の差が出てきます。もう一つは閣議了解を取った後に万が一、大阪以外に他のところが手を挙げた場合。これだってリスクがないわけではないんです。そこも含めた上の戦略というものは、逆に我々は理念とかそういうしっかりとした受け皿をやることにして、そこはぜひ座長と副座長と事務局と高度な緻密な信頼できる部隊を作って、という話なんです。

○森下委員

まったく同じ意見ですね。これは閣議了解を取ってからの話になるかと思えますし、今回閣議了解を取った後にオリンピック、パラリンピックの経験がそのまま生きてくと思うので、おそらく外務省、官邸中心にかなりODAを含めてですね、する話だと思えますので、ここですするというのは時間もありませんし、ぜひ本来の目的のところに専念して、良いものを作っていくというのが一番大事だと思うんですね。中身がないといくらロビー活動をしてダメだと思うので、まずは中身を作ることに専念して、余裕があればということ。どちらにしろ閣議了解しないと本格的になりませんので、これだけの短い時間で固めるのであれば、専念した方がいいというまったく同じ意見です。

○秋山座長

ありがとうございます。ロビー活動が重要だということは皆さんが同じ意見ですが、詰めのところは専門の委員会を作って、そこで進めていくということかと思えます。

○澤田委員

愛知万博の時に私は招致には関わってないのですが、聞いた話としては、今のBIEの加盟国168になっているんですが、その時にすごく増えたんだそうです。なぜ、増えたのかというと、先程の溝畑委員のご質問ですけど、政府代表が1票入れるんですね。各国が1票持っている。日本では経済産業省が政府代表として1票を入れるんですね。そこは明解なんです。外交ルートでやるということが条約上決まっているのです。その時に愛知万博を取るためにどうしたかということ、BIEに加盟していない国に、日本が博覧会をやるときには出展の応援をするので、ぜひとも加盟して博覧会に出てきてください、ということで、たくさん加盟していただいたんです。その票がどつと日本に入って愛知万博が取れたと聞いています。ただ、すでに168入ってしまいましたので、入っていない国の方が少ないので今更多数派工作は難しいだろうと思えますが。ちなみに大阪万博が誘致される時には加盟国がおそらく30~50ぐらいの間で、先進国だけの投票で決まったのですが、初めて愛知万博の時にいわゆるロビー活動というものをかなり積極的にやって票を取り込むという活動をしたというふうに伺っています。取るために非常に重要であります、そんなことがあったそうです。

○秋山座長

非常に参考になるご意見でございました。はい、どうぞ。

○伊吹委員（代理：井上博覧会推進室長）

経済産業省の井上と申します。さきほど私の名前の紹介がありましたが、澤田先生がおっしゃるように、この万博はFIFAとかオリンピックと投票の形式が違いまして、政府が一票を持ってやるというやり方をおこなっています。実際に立候補後は、競合国との関係も踏まえ、準備を周到にやらなければいけません。愛知万博当時の経緯を見ますと、澤田先生がおっしゃったような、ODAを使ったようなやり方もしてますし、かつ、地元の産業界の方々とタッグを組んで、例えば現地政府、現地の政府に対して、現地の企業から政府をアプローチするとか、いろんなやり方があります。IOCのように個人をターゲットにして周りから攻めるというよりは、若干、国と国との関係でどういう形で攻めるかって、そういう意味でさっきおっしゃった在日大使とか、そういうのも一つのやり方ではあります。

また、「なぜ大阪なんだ」という点につきましては、中谷委員のおっしゃる通り国内の議論においても非常に重要になります。先般森下先生が政府部内に設置されている健康立国関係会議でも、大阪万博や関西・大阪における医療イニシアティブを御説明されているように、大阪の取り組みを様々なところで紹介するも、国内での意識醸成に貢献するものと考えられます。

○秋山座長

はい、ありがとうございました。ロビー活動に関しましては、かなり現在の概要が分かりましたし、少し共通認識ができたかと思えます。おって、事務局の方でまとめて対策を提案していただきたいと思えます。

その他のことに関しまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。無いようでしたら、次の議題に入る前に、本日ご欠席の中村委員と増田委員からご意見をいただいておりますので、事務局からご紹介をお願いいたします。

○事務局

資料5「中村委員からいただいた意見」、

資料6「増田委員からの提出資料」について紹介

○秋山座長

ありがとうございました。お二人のご欠席の委員からのご意見をご紹介いただきました。これにつきましては、次の議題2の中で、お二人のご意見も踏まえながら意見交換をしたいと思えます。

では、議題2に移りたいと思います。議題2は「基本理念」、「名称」、「テーマ」、「サブテーマ」についてでございます。基本構想府案にあっては、他国の立候補の動きなどを見つめつつではございますけれども、タイトなスケジュールの中で取りまとめていく必要があるため、本検討会議の議事を円滑に進めていく必要がございます。そのため今回、事務局に「基本理念」、「名称」、「テーマ」、「サブテーマ」に関して、これまでの全体会議、部会で出されました意見を集約、整理していただいております。これが資料の3-2でございます。それを踏まえて基本構想を取りまとめるにあたって、委員の皆さまに、さらに議論を深めていただきたい事項を事務局にまとめていただきました。それが資料の3-1になります。それでは資料の3-1及び2の説明を事務局からお願いいたします。

○事務局

資料3-1「本日、議論を深めていただきたい事項」、

資料3-2「基本理念、名称、テーマ、サブテーマに関してこれまで出された意見の整理」について説明

○秋山座長

はい、ありがとうございます。基本理念・名称・テーマ・サブテーマにつきましては、基本的な方向性につきましてはすでに各委員のご賛同をいただいていると思いますが、本日は事務局からの特に先ほどの4つの視点について議論を更に深めていきたいというご提案でございました。みなさんからのご意見をいただきたいと存じます。まず、最初に前回ご欠席でした嘉名委員の方からご意見いただけますでしょうか。

○嘉名委員

嘉名でございます。私は専門が都市計画なので、最近海外でちょっと講演してくれと言われたトピックとか、あるいは海外から来られた研究者の方から教えてほしいと言われた話題がぱっと思い浮かぶんですけど、一つは今年の5月にタイに行って、招待講演しろと言われて行ったんですけど、その時やっぱり指名でテーマ設定されたのはエイジングソサエティでした。やっぱりアジアの国々は相当高齢化に対する問題意識というのは極めて高いということが印象としてあります。そのことを我々の分野からすると、どうやって都市をマネジメントしていけばいいか、どういう都市に造り替えていけばいいかということに関してとりわけ関心が高いというのがすごく印象としてあります。それからもう一つは、これは医学系の先生の方がご専門としては非常に詳しいとは思いますが、特に最近都市計画であるのは、日常生活でどれだけ消費カロリーが健康なレベルで達成できるのかみたいなことを特にアメリカの研究者はすごく熱心です。日本の我々の専門分野でいうと交通の分担率というんですかね、そういうのが本当に世界の中では突出して公共交通の分担率が高いと。それが健康にどう起因しているかということ、やっぱり日常的に階段とか上り

下りするっていうことが、健康にかなり影響しているんじゃないかと。特にアメリカの研究者なんかはものすごく街のつくり方が健康とかなり関係が深いんじゃないかみたいなことにちょっと着目している研究者が非常に多い。そうすると、モビリティとか都市の形とか日常のライフスタイルぐらいのところまで話が及んでくる。そうなってくると、実は高齢者のためということでもなくて、若い人もどんな街で暮らすのかどんなライフスタイルを送るのかということになって、非常に関心が広がるのかなというのが一点ございます。それからもう一つは、私は会場の方を検討する部会に所属しているんですけども、色々たぶん条件とか考えていくと、かなり限定されるというんでしょうかね、候補地が限定されてくるということなんですけど、実際にこのテーマで博覧会をやろうとすると、やっぱり実際の街との連動っていうのはかかせないんじゃないか、あるいは実際のフィールドとの連動はかかせないんじゃないかなという気がするんですね。過疎の村で元気に頑張る高齢者の方がいらっしゃる街、すごく卓越した成果をあげられている地域があるとかですね、それから都会でコンパクトな日常生活を送られるということで、日常の医療拠点なんかと連動しながら健康を保つような工夫をされているとか、実際のフィールドとかなり連動したような、生きた展示というんでしょうか、そういうものと連動していくようなリアルな街づくりとの連動というのがとても大事なんじゃないかなという気がしています。ですから、もちろん博覧会の会場ということともさることながら、実際に関西あるいは大阪のフィールドで展開される街づくりと実際に連動していく、今日がスタートだとすれば、2025年までの間、プロセスが実は非常に重要なのではないかなという気がしています。だからそういう意味では、ちょっと言い方が変かもしれませんが、博覧会がどうだろうと、この9年ぐらいずっと積み上げていったものが絶対、地域に役に立っているというんでしょうかね、あるいは日本にとって役に立つ、そういう心構えで展開していくということが実はこのテーマで一番重要なことじゃないかなという気がしております。ちょっと雑駁なコメントになりますが、以上です。

○秋山座長

ありがとうございました。他にご意見、ご質問はございますでしょうか。はい、どうぞ。

○森下委員

私からは参考資料3で一回意見を出させてもらってるんですけども、それをベースにしながらかね、少し私の意見を述べさせてもらおうと思うんですけど、参考資料3をですね、ぜひ見ていただきたいと思うんですけども。今回の日本万博はですね、基本、先ほどから大阪と言われていますけども、大阪万博ではなくてやっぱりナショナルプロジェクトであると。そうしたことを考えると、2025年の政府の経済成長戦略の中に、ヒットする、あるいはそれを加速するような存在でなければいけないだろうというふうにいるんですね。2025年に今政府としてどういうものを抱えているかということ、一つは600兆円のGDPと

ということで、これ 120 兆円を今から上乘せしなくちゃいけないと。そのうち 90 兆円くらいが健康医療に関連するいわゆるサービス産業でということになっているようですから、かなりの割合をですね、やはり健康医療が占めるのだらうと思います。また同時にインバウンドが 6000 万人という目標を掲げていまして、これもかなりですね、ハードルが正直高い目標だらうと。そういう意味では、インバウンド、成長戦略の中で、この日本万博というものを位置づける必要があるんじゃないかと。一方で、先ほどちょっと井上さんからお話があった健康医療戦略というものを、政府としては毎年発表しております、今年もまもなく閣議決定を経て出てくるかと思いますが、この日本全体での健康戦略というの、ぜひこの中へ取り込んでいく必要があるんじゃないかと。ぱっと見た限りでは実はかなりかぶってしまっていてですね、齟齬は全然ないんだらうと思います。一度事務局の方に、発表があったら、ぜひ各委員にこの日本の今年度の健康医療戦略を配布してあげまして、その中でサブテーマ等を考えていく、合致させるまではないのですが、やっぱり摺合せはいるんだらうというふうに思います。もう一点は、今回、東京がオリンピック・パラリンピックをして、その 5 年後に大阪で万博をするというのは、大阪というよりも関西が今度は全体でやるということだらうと思いますので、場所は湾岸部ということになるかと思いますが、関西全域をこれをきっかけに国際的な総合リゾートにしていく必要があるんじゃないかと。その中で私が書いてますように、京都のやはり世界文化遺産としての和食とかですね、あるいは京野菜といったような食の問題、それから淡路島の農業とかですね、和歌山の漁業とか、あるいは神戸の先端医療とかですね、そういうものをうまく取り込んでいく必要があるんじゃないかと。メインの場所は大阪ということになりますけども、各地区でのテーマ設定でそれぞれサブ会場を設けていって、関西全体でこの日本万博をやるということになれば、若者からお年寄りまで関心を持っていただけたらと思いますし、やはり周辺の方々もやはり真ん中である万博会場に足を運びたいというふうに思うんじゃないかと。そういう意味では、閣議決定を経てということになるかと思いますが、幅広く議論をすべきかと思っています。特に今回、先ほど話しましたように、国対国ということで、政府が実際に提案をして、最終的には各国が投票して決める、逆に言うとこれは、万博が始まったら、各国の首脳が日本に来るということに繋がらうかと思いますが、そうした日本に来たVIPの方々をそれぞれ日本の医療で人間ドックをしてあげるとかですね、あるいは日本の医療の最先端の食事とかあるいは技術とかを提供して、いわゆる滞在型リゾートを各国のVIPに体験をしてもらおう。これがやはり実は一番効くんだと思うんですね。富裕層の中で一番やはりトップの方は、結局は世界のVIPですので、その方々をやはり大阪・関西で、この万博の時にもてなしてあげると、そういう精神でやっぱり全体を作っていく必要があるんじゃないかと。中側での議論として、国内の方に来てもらうという話もありますが、一方で海外の人が来たときにどうやって楽しむか、そこもぜひテーマ設定の中に入れておく必要があるんじゃないかというふうに思っています。そうした意味で、ちょっと試案の方で何個か出さしてもらっていますが、一読していただければと思い

ます。

○秋山座長

ありがとうございました。包括的なご意見でございました。ほかに。

○溝畑委員

この間大学生とか、高校生と話してですね、「君ら万博どう思うか」と聞いたら、健康長寿というと、あんまり彼らの心に響かないんですね、はっきり言って。やはり名称を「健康・不老・長寿」というとか、要するにみんな共通しているのは、いつまでも若くいたい。20代のやつらに聞いたらやっぱりですね、美顔でこんなエステしたり、それから薄毛、私も一時通いましたが、リタイアしましたけども、薄毛で行くんですよ。なぜか言ったらいつまでも若く見せたい、そのために皆、人によってはホルモン剤打ったりするんですね。そこのビジネスはすごいんですよ。皆若いやつ、世代問わずそこは皆関心があって、おいしいもの食って運動していつまでも恋をしたい、そういうその分野に入ってヒットすると、ピクピクと来るんですね。人工知能とかロボットとか、やっぱり普通の人々がストレスを感じている代わりにロボットがやってくれる、もっともって精神的にも健康になる。これ障がい者も入れるべきだし、共通しているのは、私、長寿ということですね、エイジングというよりアンチエイジングというような気がしてるんですね。一番皆思っていることは。例えば、最近ライザップってありますでしょ。あれ何でやるかと言ったら、モテたいからやるんですよ。やっぱりズバリ言う。そういうことです。皆モテたい、いい思いしたい、もっともって俺はハッピーになりたい、そういう心に響くようなものをやらないと、若い世代は動かないと私は思います、なかなか。若いやつが動くのは、おそらくこういった美容とか、不老です。僕意外と受けたのは不老だったのです。薄毛の話をした時に、やっぱり毛を増やしたいのはやっぱり、いつまでも若く見せたいということなんですね。そこでやっぱり、人間の本能とか感性に響くところを、こんな真面目な議論をするのも大事なんですけども、一回もっとチャラにして話をしないと、巻き込みが難しいなと思ったのがまず第一印象です。で、今、森下さんがおっしゃった中で、ちょっと健康というのをもう少し場切りをした方がいいのではないかって思ってましてね。通常医療とか食とか、そういうところから入っていきますけども、さっき、増田さんからの意見のスポーツですよ。やっぱり健康予防とか、いつまでも走れるってすごく大事なことだし、やはりスポーツを入れるべきかなと。あと食ですよ。一日3回、食摂りますから。やっぱり食というのと、私は人工知能、ロボット、障がい者向けのいわゆる健康対策ですね。これをパッケージにした場合にですね、なぜ2025年大阪なのか、という意味合いです。これが大事なんです。これは私のジャストアイデアです。この10年後、オリンピックが終わった5年後、東京一極集中の国土政策に対して、二極を担う関西をもう一回浮揚させる、これは国土政策上必要である

ということを皆さんに理解してもらうこと、これが大事やと思います。「なぜ大阪なんですか」という時に「別に沖縄でもええやないか」あるいは「北海道でもええやないか」、「東北でもええやないか」と出てくる可能性ありますよね、東北復興で。あるいは熊本、地震があったからこっちを復興すべきやと。でもなぜかというところは、やはり私は脈々とある東京一極集中をもう一遍是正します、という確固たる国土政策としてその必要性をしっかりと理解してもらうこと。もう一つはですね、今さっき森下さんがおっしゃった、大きなヒントがあるのは、実はですね、2025年というのは都市魅力 MICE 戦略から言っても、ちょうど今大阪と東京ってですね、インバウンドの数がほぼもう肉薄してきたんです。例えば、この1月から6月ですね、大阪に来た観光外国人の数が450万人、東京が560万人です。去年は200万人の差が開いていたのが100万になったんです。ですから2025年に最もグローバル都市としての成長性が強い、そして世界を受け入れる最先端の都市として大阪でやることによって、観光立国の大きな道しるべをつけます、ということと、この国土政策上の意味合い、そしてさっき言った医療、そしてですね、スポーツも産業のことも申し上げますと、ここは大事だよ、大阪っていうのはスポーツ産業があるんですよ。非常にもともとベースがですね。そういうものをさっき森下さんがおっしゃった、成長戦略のスポーツ分野の最先端に行く街として大阪と、観光立国の最先端に行く大阪の2025年。そして健康医療、医療革命の中でのトップ、リーダーとしての役割。このリーダーの役割を担うということをして2025年かっちりと決めて、実際そういう風に動いているわけですから。そこがですね、2025年の意味合いかな、ということとございまして。いろいろと多々申し上げましたが、このポイントのところもですね、「科学と技術の発展」、「安定した生活の実現」、これだとですね、申し訳ございませんけども、各県の長期総合計画にどこにでも出てくる内容だから、なぜ大阪かという時に、例えば「チャレンジ」だとかですね、そしてまた「ブレイクスルー」と。こんな取りきりなくていいですよ。例えばこのサブテーマってどういうメッセージ性をもたせるかというところを決めた方が、ここ非常に重要なんですよ。最初のテーマはこれでいいと思いますよ、「人類の健康・長寿」は。これはいいと思うんですけど、ここをさっきここにありましたね、この「安定した生活の実現」が漠然としているという意見がありました、という意味合いはですね、結局このサブテーマって誰を対象に、どういうインパクトを与えるかというところを明確にすれば、そういうインパクトは小さくていいって言うのならこれでいいんですよ。でももっと、例えば攻めていくというような方向性、あるいは戦略の方向性を示すのであれば、皆さんこの物の見方が人によって違うもんだから意見が割れるんじゃないかな、ということだと思います。ここは決めの問題ですよ。

○秋山座長

どうもありがとうございました。すでに議題の3の事業展開の議論にも入っております

すので、引き続きこれも一緒にやっっていこうと思います。まずは事業展開の今後の議論の参考に、澤田部会長から資料を提出していただいておりますので、その説明をお願いして、今の議論を続けていきたいと思っています。よろしく申し上げます。

○澤田委員

資料を説明する前に、今溝畑さんからあった話ですが、忘れないうちに発言しておきたいと思っています。サブテーマを具体化する議論は早すぎると思っていて、今はBIEに手を上げるために、日本政府もしくは日本としての国際社会に対する国際博覧会の在り方を提案するものなんですね。なので、このサブテーマは日本国内向けではありません。国際社会向けのもので、極端にいうと、日本国内はこれに大きく反応してくれる必要はないんです。ただ、向いている方向が正しいのかどうかをきちっと評価していただくものとして存在しないといけない。この段階の基本構想では、かなり理念よりのもので良いと思います。例えば、愛知万博は「自然の叡智」というテーマだったんですが、そのテーマを今覚えている人はかなり少ないと思います。今は愛知万博と言っていますが、その時は愛・地球博と言って、キッコロとモリゾーで何となく環境万博だなあ、マンモスがいるな、と具体化されるんですね。そういうもんなんです。ただテーマを立てる時には、どちらかというと日本の独自性をテーマの中に入れて、どういう発信をするのかという比較的固めの言葉でまとめるのが通常ですし、今回もそれがいいのではないかと思います。ただ、実際にはそれではプロモーション効果がないので、実際にもの考える時に事業展開の中にスポーツ・食・住宅・医療、色々なものがありますね。その中にお子さんが参加できる、それから高齢者が参加できるといったようなものを入れてくるのが正しい話で、今そこまでやると結果的に担い手の話になってしまい、議論が拡散してってしまうんですね。なのでこの国際博覧会の骨子を語るタイミングではあまりそこに大きなページを割くというのはおすすしめません。世界的に見た時に、日本が何してるのかわからない、みたいなことに言われかねないと懸念します。

○澤田委員

それで、資料4のご説明でございますが、これはですね、国際博覧会の事業というのはどのようにできているのかということ、今の誰がやるのかということも含めてご説明をさせていただきます。左側が、BIEの条約もしくはレギュレーションの中に書かれていることを概念的に整理したものです。そういう意味では、正確性には欠けるところがありますが、概念整理としてはこういうことでございます。この上にですね、太い線で囲われておりますが、これが博覧会会場と書いてありますが、BIEの規定上は主会場というのは有料会場で、これはゲートマネーというのをとらないといけないんですね。BIEに払う規定があり、きっちり主会場を作れというのがBIEの規定であります。これをあまり分散させるという考え方は、BIEはあまり歓迎しないと思います。会期は最大6か月以内というふうが決まっ

ておりまして、その中で中身としましては、上の楕円形のくくり、ここが公式参加国、要するに条約に加盟している国々の出展エリアであります。で、陳列区、日本語では陳列区という名前になっていますが、この中には2種類いてですね、この5年に一度の万博の場合には、敷地渡し条件になりますので、土地だけを整備してお渡しして、建築以降は各国がやっていただくというのが基本的な考え方です。お金のあるところは、当然敷地を渡して建てていただくので、この図でいうと上の方に並んでいるところがそういったイメージであります。それから下に、集合館というのが右と左に2つありますが、先ほど申し上げたように、小さい国々は、なかなか日本に来て建築をする余裕がとれないので、建物そのものを日本が作って、その中に入れていただきましょうというのが集合館としてあります。通常はアフリカとかですねアジアとかですね南米とかですね、地域ごとにまとまっていたらいい、これに、各国が芸能団を送るとか、スタッフを送る費用も日本政府が色々な支援をしながら出展していただくということで、百数十か国集めようとする、そういった支援をかなり日本政府にお願いする必要があると思います。集合館ではだいたい先ほどお話したように地域毎のくくりが多いのですが、ミラノ万博では食がテーマでしたので、コーヒーの産地とか、チョコレートの産地とか、穀類の産地とかということで、それぞれの産地別に分けた提案をしております、だいたいその小さいところは物産館になっちゃうんですね。なので、なるべくテーマと結び付けたいという思いが、ミラノ万博ではそういう挑戦をされたんだと思います。それから、右側にメインイベントホール、迎賓館というのがありますが、これは先ほどVIPがたくさん来ますよねという話と繋がっている話で、ナショナルデーというものを必ず参加した国は持つことになっています。かなり大々的にやりますが、当然向こうから政府代表が来て、儀仗隊が国歌を演奏しながら旗を掲げるといふ所からスタートして、政府代表と一緒にイベントをやるということになりますので、迎賓館、イベントホールというものが施設としては要求されます。それからテーマ館が真ん中に書いてございますが、テーマ館を作りなさいという規定は確かなかったと思います。ただ、だいたい作ります。テーマ館というのは、主語があくまで博覧会を主催する団体です。日本政府と博覧会主催する団体、国がそのまま主催する場合もあるようですが、多くは国と主催する団体は別で、通常は博覧会協会が出来上がります。その主催団体が立てたテーマをより詳しく解説するための施設としてテーマ館というものを置くことが普通であります。それを見ると、各国の具体的な提案がより分かりやすくなりますよとか、日本としてはテーマをこう考えてますよといったようなことを発信する。これはだから、どちらかという日本よりですが、あくまでも博覧会という主語、我が博覧会という主語で作られるのがテーマ館です。で、その公式参加国の一番手前にありますが、日本館もそういった公式参加国の一部分というのが基本的な位置づけであります。当然、日本政府もパビリオンを出すことになります。その下に、くくりが開催府県館と書いてありますが、今回実現すれば大阪府、それから大阪市も出るのかもしれませんが、各府県が出るということになると思います。それから、企業館というのが出ますが、BIEの規定上は、この公式参加国

とそれ以外の地方政府と企業のパビリオンについては全くランク分けされています。場所も違うエリアがよく、公式参加国と少しランクを変えましょうということになっています。日本の場合には、この企業館がすごく多かったので、愛知万博の時に BIE からその是正を求められて、公式参加国の面積の確か3分の1だったと思いますが、面積として3分の1を超えてはならんというキャップをかけられたので、非常に企業館が愛知では少なかったというそういった事情であります。こういったような日本、各府県、企業といったような日本のグループというものがあるんだろなあというふうに思います。ここが一つの塊であります。それから、下の丸ですが、市民・NPOによる参加というのは、これは愛知万博が最初に国際博覧会の中で大々的にやったものであります。これは愛知万博が当初かなり環境団体に批判されて、開催が中止になりかけたという所から、環境団体との博覧会協会の対話がスタートして、それをベースでより理解が進んで、市民参加の会場を大々的に作ったという経緯があります。それが愛知万博の成功をドライブしたし、評価を高めたというところがありますので、日本がやるのであれば、市民・NPOの参加というのは重要なことなのだろうというふうに思います。それから、左側に主催者事業、実証実験・社会実験というのがありますが、これも日本は比較的一生懸命やります。愛知万博でも、後で事例をご紹介しますが、地方もありますけども、政府と一緒に、企業と政府と一緒に、まさに新しい物を開発して持ち込んでくるということをやっています。それと下に広域展開ということで、点々が出ておりますが、その真ん中にやや太い枠線がありまして、国際博覧会に関して開催する国際会議、これは BIE の規定で実施が決まっています。いくつかの種類が規定されていますが、規定以外のものやってもいいんですが、例えば今回でいえば、健康もしくは長寿というものを社会としてどう受け止めていくのかとか、どう理解するのかというようなことを深く議論していく必要が相当あると思います。それを、日本国内だけではなくて世界中の人を集めて議論して、それを人類として進めていくというリーダーシップを日本が担うということが、この国際会議に示されることでありますし、博覧会の進行状況を各国に説明しながら話し合う会議も持てというふうに決まっておりますので、そういったものが行われるわけです。これは博覧会会場の有料エリアの中でやれというふうに決まっておきませんので、広域でどこでもいいということになっております。それ以外にサテライト会場は、愛知の時も市内でやりました。一般の市民からすると愛知万博の会場はここにもありましたね、というように見えるんですけど、それは実はよく見ると、BIE が規定しているいわゆる公式な博覧会会場とは別の形で行われるということがたくさんありますので、分散会場といっても、公式な分散会場とそうでないものがあるということです。それをやや具体的な例ということで、愛知万博、上海万博、ミラノ万博で少し比較して見るとこういうことですかということですが。テーマ館は、愛知万博ではグローバルハウスということで、過去、現在、未来における地球と人類の在り方ということで、冷凍マンモスが展示されていたご記憶があるかと思いますが、ここがございました。上海は5つありまして、都市人館、都市生命館、プラネット館、文明館、未来館ということで

5つありました。ミラノはパビリオンゼロというものがあまして、これは国連の食糧計画と一緒に作ったパビリオンで、これはかなりしっかりしていました。愛知万博のテーマ館に比べ、パビリオンゼロはかなりメッセージ性がしっかりした展示がされていたというふうに思います。主催国パビリオンは愛知万博では2つあまして、会場が二つあったためなんです、長久手日本館、これ主会場ですね、それから瀬戸日本館、これは市民参加の会場ですが、共通コンセプトは「つなぎ直そう。人と自然」という名前のテーマでした。中国は中国国家館というのがございまして、会場の真ん中かなり大きな建物を建てておりました。テーマは「都市発展における中華の知恵」というようなことが提示されておりました、国家館のまわりには各州が伝統的な街というのを作っておりました。イタリアはですね「Palazzo Italia (イタリア宮殿)」ということで、若者を育成することで持続可能な世界を作るぞというようなテーマでやっておりました。この周りにはイタリアの各州が展示しておりました。形態としてはイタリアと上海は近い形態ということだと思います。先進的な取組みでいいますと、愛知万博は燃料電池自動車とか自動運転バスとかエコマネーとか、森の自然学校（環境教育）、自然エネルギー、新エネルギー、垂直緑化、ドライミスト、ロボットといった今では比較的世の中で当たり前になっているような技術はかなりここでやりました。上海ではベストシティ実践区の中に模範都市というのを作っていて、世界中から技術を集めて、それをある種都市のような形に仮想実験できるような展示をしておりました。電気自動車の充電ステーション、世界最大級ということですが、作りましたし、これはちょっと視点が違うんですが、中国人のマナーを教育しようみたいなことにも活用していたと。それからミラノ万博は、かなり財政が苦しかったとおうかがいしてまずので、あまりそういった事業が行われておりませんでした。バイオダイバシティパーク、未来のスーパーマーケット、これはどっちも民間企業がやりました。それから市民参加・NPOについては、先ほど申しましたように、愛知万博が一番熱心でございまして、市民パビリオン&海上広場、瀬戸会場ですね。コンセプトはあなたの地球の愛し方を見つけてくださいということで、ものすごいたくさんの市民が参加してきました。それから世界中のNPOを集めようということで、これは長久手の会場ですが、地球市民村というのをやりました。上海はですね、市民参加というのは会場外で分散的に行われて、当然ボランティアはありました。ミラノ万博はスローフード協会、それから世界農学者協会の出展がございました。それから会場構成としましては、長久手と2つ分かれておまして、2km離れておりました。それをゴンドラで結んでおりました。長久手が、3分の2が森と池で、高低差が30mもある丘陵地帯でございましたが、グローバルループで結んで会場を建設したということでもあります。上海は、大きな川を挟んで2つに分かれる会場構成だったんですが、先ほどご紹介した公式参加国は全て同じ会場に入っておりました。これを分けてはおりませんでした。反対側の川の対岸にはテーマ館とか企業館ということで、公式参加国とは色あいを分けて作っておりました。それから博覧会後に残すということで、1地区4館という言い方しておりましたが、実際にその後の博覧会の在り方、会場の残し方ということで最初

から計画がされておりました。ミラノ万博は東西 1.5 km、もう向こうがかすむくらい直線道路ができておりましたが、そこに各参加国を、間口を全部合わせて、要するにピアノの鍵盤、京都の町屋のような感じですが、要するにお金があって大きなパビリオンだけがほしい間口が広くて目立ってしまう、それはやっぱりまずいだらう、というのがミラノ万博の考え方で、全てお金がある所もない所も間口が同じという工夫をされておりました。こういったような形で、いくつか具体例としてご紹介しました。

○秋山座長

どうもありがとうございます。先ほどからいただいておりますサブテーマについてのコメントと新しいコンセプトをご提案いただきました。それを事業に落としていくことが理念・事業展開部会の次の仕事となります。時間があまりございませんが、このような新たな視点でも結構ですし、具体的な事業展開のイメージなどに関しましてご意見をいただきたいと思っております。

はい、どうぞ。

○玉井委員

玉井です。この前から若者にどうアピールしていくかということが議論の大部分あったと思うんですけども、澤田さんにお伺いしたいんですが、例えばこのテーマに長寿というのが入ってるじゃないですか、長寿って普通の人で聞くと、少しお年寄りにシフトしているイメージがあって、例えば長寿というのをマスク、いや落とされたような場合、例えば健康みたいなものがテーマとしてある場合に、少しカバレッジが広いのかなと思うんですよ。若い人ももちろん健康というのは興味ありますしね。先ほど溝畑さんがおっしゃったように、とりあえず若い人達にピクツとしてこれに来てもらうという仕組みを作るときに、メインのテーマが長寿となっていた時に、やっぱりちょっと首かしげる人がおるんじゃないかな、私はそのようにちょっと思うんですね。これはまた皆さんの意見を聞いて議論していきたいところですけども。あとサブテーマのところですね、かなり大きなポイントになっていて、ちょっと私の個人的な感覚で言うと、テーマに対してサブテーマなんで、もう少しテーマを想像させるようなサブテーマにした方がいいのかなと思うんです。もちろん、国際社会にアピールするための言葉であるとはいえ、ちょっと広すぎるのかなというふうに思うんです。先ほど他の委員からも出ましたけども、健康ということを基軸にして、これの衣食住という生活に密着したものがどういう姿になるんだろうと。例えば我々も、当然ロボットのある未来の住まいみたいなことを研究しているんですね。例えばそういう都市計画も含めて、住居の様子とか、あるいはそこでの生活の様子、衣食住を含めたものをどう見せていくかというようなところをサブテーマでぱっと分かりやすいような形で、出した方が説得力があるのかなというのが私の個人的な意見です。

○江原委員

今、玉井委員がおっしゃったことですが、私も同じようなことを考えました。例えば、第4次産業革命です。今、その時代に入ったといわれています。ロボットとかAIとか若者に興味がありそうなイメージのある第4次産業革命という言葉健康と長寿に関連づけ、強調すれば、若者の関心を引くことが出来ると思います。同時に、年配者の方にも関心がさらに高まるのではないかというふうに感じました。サブテーマに第4次産業革命という文言を組み込むのもよいと思います。前回も言いましたが、サブテーマは、文化、生活、環境、科学技術を強調しており、人々の生活、一生を非常にバランスよく表現しており、テーマを具体化していると思います。このうち、第4次産業革命と密接に関わっているのは科学技術ということになるかと思いますが、同時に、文化、生活、環境の改善、進歩とも深く関わっています。第4次産業革命と健康、第4次革命と長寿などのいい方は、老若男女の関心を集めるのではないのでしょうか。

以上です。

○澤田委員

私が答えていいのかよく分かりませんが、長寿に関しては、実は私も玉井さんと同意見で、長寿というのは、確かそうですね、目的ではないのでどうだろうかという議論が出てると思います。そこは慎重に議論した方がいいかなというふうに私も思っています。ただ、先ほどこの検討会の前に秋山先生と話をしていた、人生が長くなってくることは技術の進歩上、社会の進展上ありえるわけで、その時にずっと生き生きと生きられるコンセプトみたいなことを日本から発信していく。日本というのはそういうことについて比較的寛容な民族なので、それを何か分かりやすい言葉で発信していくと、日本人はそういう文化、長寿社会でも皆が精神的にきらきら生きられる精神性みたいなものを日本人は提案してるんだなあということを言われるとよいですね。愛知万博の自然の叡智というテーマが、先ほどちょっと前にも話しましたが、初めに自然の叡智というテーマが出たときに、西洋人から理解されないだろうというかなり批判があったんですね。でも結果的には時代が追い付いてきて、地球に成長の限界ができた時に、日本人的な自然にも叡智があって、人間もその一部なんだというふうに考える方が合理的なんじゃないかという、日本的な感覚がメッセージされたんですが、それが結果的にもものすごく評価されたんですね。そういう意味でいうと、秋山先生がおっしゃっているようなことを、長寿という言葉という、日本人は寿が入るので良いことに見えるんですが、高齢と書くとなかなかつまなくなっちゃうので、何かいい言葉に転換できれば日本人らしいコンセプトが出るのかなあというようなことを、思っておりました。それからですね、この議論は非常に難しくてですね、愛知万博の時も結果的にサブテーマがよく分からんという話があってですね、その後からコンセプトということとテーマの展開っていうのを作ったんですね。テーマの展開というのは、サブテーマをどういうカテゴリーに具体的に

もっともっと細かい、例えばロボットとか生命工学とか色々な細かい言葉で展開していくような展開マップを作ったんです。これがあると、どんな若い人もどの国でもどこかにフックが作れるよねっていうようなものを、かなり入念に作った記憶があります。それから地球大交流というコンセプトを立てて、これはオープン2年ぐらい前だと思いますが、より分かりやすくいろいろな人にわかっていただくためのものとして作ったというふうに思っています。なので、テーマとサブテーマというのは比較的固めに網羅的なもので最も上位概念をとらえておいて、計画の進行に合わせてどんどんブレイクダウンしていったというのが愛知万博のやり方だったと思いますので、今回どうするかはまた別の議論だと思いますが、私の感想としてはそんなところでございます。

○秋山座長

ありがとうございました。私も多少意見を述べさせていただきます。長寿という言葉だけを聞くと真っ白な髪で、あごひげがなが—いというイメージがあるかもしれませんが、人が90年、100年生きる時代が来たということなんですね、長寿社会というのは。第1回検討会議でも申しましたけれども、日本では人生50年という時代が長く続き、その中で人は生きてきました。その時代から比べると人生が倍くらい長くなりました。そうすると、人生50年の生き方と100年の生き方は自ずと異なります。私たちの親や祖父母の時代には不可能だったことが、これからの子どもたちの未来には可能になる。長寿社会の到来によって新たな可能性が生まれるということを前面に出すべきだと思います。一番初めのタイトルで『長寿』という言葉を入れるなら、サブテーマに『人生100年時代の何とか』というふうな形で、長寿が何を意味するか、メッセージを送ることが必要だと思うのがひとつです。

もうひとつは、今や『健康長寿』はすべての先進国の目指す課題で、それだけではテーマの新規性はありません。例えば、住んでいるだけで健康になるまちをヨーロッパのまちではいろいろ実験をしています。産業界においても、医療、医薬品、食など他分野で取り組んでいます。医療や医薬品も結構ですが、健康長寿を達成した国のもう一歩先のゴール、長寿時代の新しい生き方とか、新しい社会の在り方を世界に示すことが、この万博の目的であるべきではないかと思います。健康長寿を達成したらこんな社会が実現するのだということを、長寿社会のフロントランナーとしての日本が示し、リードしていく。具体的には、例えば、会場の中にそうした街を作ってビジュアルに提示する。同様のテーマで国際会議を同時に開いて議論を巻き起こす。そんなイメージを私は持っています。私の年代はtoo late であまり享受できませんが、若い人達に夢をもたらず長寿時代の新たな生き方、可能性がメッセージとして伝わるような万博に出来るといいなと思っています。

すみません。定刻を多少オーバーしました。議論尽きないところでございますが、今日はここで議論を一応ストップさせていただきます。ご意見がある場合は、事務局の方にメールなり他の形でもお伝えいただきたいと思います。これまでいただきましたご意見を、

事務局の方で事業展開を検討する上で必要な視点、論点として整理して、引き続き部会で議論を深めていただきたいと思います。

では、本日の議事は以上で終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

○新井委員

府の副知事の新井でございます。今日のご意見いろいろ聞かせていただきまして、ロビー活動の話もありました。勿論、閣議了解を得て、政府として手を上げていただいたらロビー活動をしていかないといけないのですけれども。そういう意味では、国家戦略として位置付けるための大きな視点が必要かと思いますが。私は、今日の議論をお伺いして、非常に熱心にしていただいているありがたいなと思うんですけれども。やはりいろんな意見が出る中で、早急に意見集約をして、具体的なものを出していく必要があるのではないかということを実は痛切に感じております。と申しますのは、例えば具体的などんな博覧会かということで、これまで私ども試案であっちこっちいろいろ回らせていただいて、ご理解をいただくようにしてきたところですが、まだまだ具体性がないとか、分かりにくいというご意見を多々いただいております。ロビー活動の以前として、やはり各企業でありますとか、あるいは国際機関を含めて幅広い主体から共感をいただくためには、国家戦略として認められる以前の段階として、具体的なものを提示していく必要があると。もうひとつは、これ政府とのご相談でございますけれども、成長戦略の話ありましたけれども、閣議了解をいただく前に、やはり何らかの形で国家プロジェクトとしての位置づけをしていただけないかなというのが、私どもの思いでございますので。そこは、私どもまたいろいろと活動していきたいと思いますが。そのためにも、ある程度の具体性というものが必要ではないかというふうに考えているところでございます。この検討会自体は、いろいろ意見をいただいている、これ自身が私は運動論になっていると、万博についての。府民理解なり、国からのご理解をいただく運動論にはなっていると思いますけれども、やはり具体的に動いていくと、閣議了解の以前にやはりきっちりと皆さんの理解を得るためには、もうちょっと具体的な『内容』、『テーマ』、『事業展開』についても、座長あるいは事務局大変ではございますけれども、固めて出して出していきたいというふうに思いますので、ひとつどうぞよろしくお願ひしたいなと思います。

○事務局

政策企画部長からあいさつ

事務連絡

【閉会】